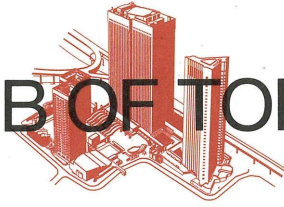




THE ROTARY CLUB OF TOKYO NEW-SOUTH



Weekly Report 東京新南ロータリークラブ週報

Build The Future with Action and Vision

築け未来を行動力と先見の眼で

1996~97年度・国際ロータリーのテーマ/ルイス・ピセンテ・ジア会長

◎本日の例会

12月6日/第490回例会

東京新南ロータリークラブ クラブ創立10周年記念 ☆特集号☆

■ 第1部 記念式典

司会	幹事	荒木昭文
16:00 点鐘・開会	会長	河原勢自
国歌斉唱・It's a small world	ソングリーダー	石坂二郎
来賓・来客紹介	会長	河原勢自
物故会員に対する黙禱	会長	河原勢自
会長挨拶	会長	河原勢自
記念事業報告	実行委員長	村川優
記念事業目録贈呈	会長	河原勢自
感謝状贈呈	会長	河原勢自
来賓祝辞	地区ガバナー	中村健二郎
	地区パストガバナー	黒澤張三
	創立時地区ガバナー	市村茂人
	地区パストガバナー	田辺賢三
	(当クラブ初代会長)	
	会長	河原勢自
17:45 点鐘・閉会		

記念卓話「10年目の初心」

■ 第2部 記念祝宴・忘年家族会

司会	実行委員	四分一 勝
18:15 開宴挨拶	会長	河原勢自
岡村喬生コンサート「歌の旅」	——世界を巡る——	
	歌とトーク	岡村喬生
	ゲスト・ソプラノ	松永栄子
	ピアノ	伊藤康英
19:20 来賓祝辞	地区ガバナー・ミニ	岩井 敏
乾杯	東京南RC会長	藤田 晋
食事・歓談		
21:15 閉宴挨拶	実行副委員長	佐藤定宏
「手に手つないで」	ソングリーダー	石坂二郎

● ご挨拶 ●

会長 河原勢自

本日、ここに当クラブ創立10周年記念式典を挙行することを心よりお祝いいたします。10周年はクラブとして重要な節目であり、いつまでも周囲に甘えてはいられない一人立ちの時期であります。この式典を期にこの10年の研鑽を振り返り、初心を見つめ直して、明日からの歴史の一步を踏み出しましょう。

幸いにも、多くの方々の御指導御支援もあり、当クラブの指導者にも恵まれ、この10年の奉仕活動や、IMの成果を含めて、小さいながら志の高い、友愛に満ちたクラブとの評価を受けているやに聞いております。

本日の式典は当クラブが尚一層、ロータリー精神を学び、それを発展させて行くための新たな決意を行う日と位置づけております。

おごそかに式典を執り行い、格調高くコンサートを鑑賞し、和やかに心温まる祝宴を楽しんで頂こうと願っております。

本日、御臨席下さった皆様には、当クラブを挙げて心からの歓迎の気持を表させていただきます。

東京新南ロータリークラブに栄光あれ！

● ひとむかし ●

クラブ創立10周年記念行事
実行委員長 村川 優

船をチャーターするというと、その船を貸し切りで使うことだと思っていた。ところが字引きをひいて見ると、Charter Partyは傭船契約証書だと書いてあるが、Charterだけでは「大憲章、特許状」という意味だそう。ロータリーに「Charter」という言葉がある。或るR.C.の創立時点からのメンバーをこう呼ぶらしいが、大憲章とまでは行かないまでも、その大本を作ったメンバーということでCharter Memberと呼ばれているのであろう。（もし間違っていたら教えて下さい）。

東京新南RCは25名のCharter Memberで創立されたが今年が創立以来10年目になる。今更過去を顧みて感傷的になる必要はないが、それでもひとむかしとなると懐かしいこと、苦しかったことなど思い出すことは多い。当時25名のCharter Memberも今では17名の在籍になっている。古い友人が消え、新しい友人が増えた。これを行云流水と悟り切るわけではないが、時と共にロータリーも変わって行くのであろう。東京新南RCも、今までの10年間に基礎として今後どのように変わって行くのであろうか、その発展の一步一步を見届けたいが、私はもう年を取り過ぎた。次代を担う方々への期待は大きい。年長者ということで10周年記念行事の統括委員長を命じられたが、その準備期間で私のしたことは、「はい、そうですか。どうぞよろしく」の二語を発し続けただけ。しかしこの二語を口に出すたびに、胸の中では「これが東京新南RCのルネッサンスだ」とつぶやいていた。記念行事の委員の皆さんのご苦勞は大変なものだった。たかが10周年という勿れ。緻密な計画、度重なる協議、その結果、矢が弓から離れたように今日の10周年記念日を迎えたわけである。皆さんのご努力と今日の良き日に乾杯！

10

年 間 を 顧 み て

青野信次、馬場一廣、入沢頼二、石坂二郎、河原勢自、宮本正祥、
村川 優、沖 宏之、斉藤茂之、佐藤定宏、武下 朗、田中 武、
吉田用親、山下忠治

(執筆：チャーターメンバー：ABC順)

青 野 信 次

私ごとで恐縮ですが、今から10年前ロータリアンである私の友人から「東京全日空ホテルがオープンした。ホテルを基点として新しいロータリークラブが設立される。ついては貴君を推薦したから、先方から連絡があったら対応するように」との一方的な電話が入った。その友人はロータリークラブについての説明は何もしなかった。

ロータリーについて何も知らない私は恐る恐る緊張して東京南RCの例会前の会合に出席した。そこで初めてキーマンの方々に会いし、ロータリーについての説明を受け、入会に必要な書類を渡され至急提出するように言われた。

今から考えると、会員選考、入会前のロータリー情報を一緒にその時受け、その後に必要な書類を提出したようなものであった。

創立総会前の準備例会では歌の練習から始まり、ロータリーについての基本的なレクチャーを何回か受けた。又、まわりを見ると年齢は下から2番目、普段ではとてもお会いすることができないような立派な方々ばかり、引っ込み思案の性格の私は「少々まづい所に入ってしまったな」とプレッシャーを感じた。そこでなるべく目立たないようにおとなしくして、先輩諸兄の言動をそって横から見ているようにした。但しこれが私にとって勉強となり教えられることが非常に多かった。

当初の例会はテーブルは5つ位用意され、出席者はビジターを含め35名位、数は少ないように思えるが、出席者は立派な方ばかり毎週緊張して例会に臨んだ。しかし、私のような若輩者に人生の大先輩が気楽に話しかけてくれる。緊張はするが大変嬉しく思ったことは何度もあった。

その後、創立総会、チャーターナイト、地区大会、委員会活動などを通じて、又役も仰せられるようになり、メンバーと一緒に汗をかき、考え、徐々に徐々にクラブに溶け込めるようになった。

以来10年が過ぎました。ロータリーって何なんだろう。奉仕って何なんだろうと考えながら10年が過ぎました。ロータリーに入会して素晴らしい方々に巡り合えたのは幸いでした。私にとって与えられるものばかり多くて、与えるものの少ない10年でもありました。

馬 場 一 廣

10年間を振り返って想い出されることは入会のときのことです。ロータリーのことは全く知らず、お誘いがあって奉仕団体に入会するという位の気持ちで、唯週一回の例会に出席しなければならないというので、これはえらいことだなと思ったことが強く記憶に残っています。そのときは、それからの10年先のことなど分かるわけもなく、10年たった現在振り返ってみれば本当にいろいろなことがあったなあと感慨深い想いが致します。

そこで、若し10年前に入会していなかった人生を想像してみて、入会したことがよかったのだろうか、入会しなかったらまた少し違う人生になったのだろうか、その人生は入会した今の人生と比べるとどんなものであったのだろうか等考えます。

考えてみたところで詮無いことで結論が出せるものではありません。

ロータリーに入会したことで矢張り時間的、経済的、可成りの負担を負ったことは事実ですし、もう少しクラブ運営がなんとかならないものかと常々考えさせられていることも事実で、なんとかしなければならない問題をはらんでいるとも思っています。

しかし、何であっていても、ロータリーに入会したことは良かったと思っています。入会してこの10年の間に自らが少し変わったなと思うことがあります。それは何かといいますと、物を観る眼線、物を判断する尺度、あるいは価値観とでもいったらよいのでしょうか。これは時代の変化でもあるかもしれないし、私が歳をとったせいかもしれません。だから、ひょっとすると、それはロータリーの影響ではないかもしれませんが、私はそれはロータリーの影響だと思っています。

矢張り、ロータリーに入会してよかったのです。しかし、より正確にはロータリー・クラブに入会して良かったというよりは東京新南ロータリークラブに入会して良かったのです。それは何故かといいますと、クラブ創立にあたりキーマンとなられた先輩メンバーが正統なクラブ作りを志され、われわれ後輩を導かれたからだと思います。

私は東京新南ロータリークラブに入会してよかったと思っています。

入 沢 頼 二

昭和61年の夏、かねてからの古い友人で新橋RCの菊地賢介さんより、今度、赤坂の全日空ホテルに新しいロータリークラブができる。ついては推薦したいので至急履歴書等を送るようにとの連絡がありました。格式と伝統のある南RCが自分のクラブの分身として力を込めて作るクラブで、しかもチャーターメンバーとして入会できる。ロータリーに入るなら今が絶好のチャンスであるからと奨めてくれました。しばらくして東京会館にいられたしとの呼出があり何うと馬場さん、青野さん、退会された安藤建設の安藤さんがやはり呼出をうけられ来ておられました。当時南RCの会員だった田辺さん、田島さん、保科さんがお見えになったので2階の喫茶室に行き、田島さんから諄々とロータリーについての歴史、目的、活動等お話下され、傍らで田島さんが時々書類等に目を通されていたお姿が今でも印象的です。保科さんにお飲物は何がよろしいでしょうか、などと甲斐甲斐しくお世話をしていたいただいた10年前のことがまるで昨日のように思い出されます。

呼出は入会審査のためかと少し緊張しておりましたが、あまり聞かれることはなく、どうやら田辺さんや、田島さんにお会いできるということは入会審査の下調べも終っておりロータリー入会にあたっての説明だったようです。どんなお話をされたのか、あまり内容は憶えておりませんが、いずれにしろ、田辺さん、田島さんの風格のようなものに触れ、ロータリー活動とは何だろうと興味をもったというのが、最初の実感です。

入会した翌年にはチャーターナイト、4年目は、田辺ガバナーの地区大会、又本年は沖分区分代理のIMとこの10年の間に、小クラブとしてはいろいろありました。会員数が少ないので皆が分担してやらなければなりません。地区大会のときは、会計という比較的楽なポジションにいましたが、それでも1年以上も前から準備をはじめ、公式の委員長会議だけでも24回以上開催されました。又、同時に地区の副会計でしたので、毎週1回、1年半、ガバナー事務所に地区の支払を行うために伺ったこともなつかしい思い出です。

今年はIMで全員一丸となって取り組んだ結果、親睦を深めたり、ロータリーを知るうえでよい勉強になりました。

ロータリーの綱領、目的は同じでも各クラブによってその気風、活動は千差万別と思います。今10年を振り返り、相当の時間を費やしたと思いますが、それ以上にいろいろと当クラブから学ばせていただいた10年でした。

石 坂 二 朗

10周年記念号にチャーターメンバーとして寄稿の御依頼を受け、さて考えて見るとなんと何もして来なかったことか、なんと誇り高く語れることの少いことか、そんな思いが先に立って、なんとも書きにくいことです。

しかしここではプラス指向で考えましょう。今年の千代田分区分のIMは立派な成功をおさめて終り、今までにないすがすがしさを覚えたものでした。テーマの決定、講演者の決定、パネルの企画、会場議事の運営、どれをとっても心のこもった最高の出来栄でした。とりわけ問題提起に應える形式でのパネルディスカッションは日頃のロータリー活動の中で問題意識は持ちながら、避けて通って来た事柄を率直にぶつけたものだけに迫力のあるものとなり参加者の心の琴線にも触れ、会議参加の充実感、清涼感を与えたものと信じます。

この自他共に誇ってよい成功のすべては10年間の歴代会長が実行委員会の各委員長となりリーダーシップを発揮して頂いた賜であり全委員がこれに応え、力を合わせ分を尽したということでしょう。私共新南の10年間の日々の歩みが凝集されIMを成功に導いたのであり、いわば発足以来10年の集大成であったわけです。

一日一日の歩み、成長は小さな目立たぬものですが、年月を重ねる中にいつの間にか大きく成長するもの。この10年なくしてはこのIMも有り得なかったことが実感出来ることはチャーターメンバーとして一番嬉しいことです。

今年私はソングリーダーを仰せつかりました。例会の始めに歌うロータリーソングを皆さんに楽しんで歌って頂くことが私の使命と心得ます。楽しんで歌って頂ければ声も大きくなり皆の心も一緒になるのです。

毎日の一步一步を大切に踏んで行きたいと考えおります。皆さんよろしく。

河 原 勢 自

創立時に入会して10年がたちました。色々の事があって長い10年でもあり、あっと言う間の10年でもありました。

顧みて、よく続けられたなあとというのが実感です。続けられた理由を考えて見ました。沢山の理由がありますが、その第一の理由は、この団体が職業倫理を中心に据えた職業奉仕を標榜する「ロータリー」と言う団体であったからです。そして創立に尽力され当クラブの育成に尽力された先達が生きてくれた職業奉仕（いわばロータリー思想）と言う理想がこのクラブの基調音になると感じられたからです。事実、その後のクラブの推移を見ても、曲折はありながら、真摯に職業奉仕を考察しており、親睦と言う名の楽しみもロータリー思想を具現するための土台であると言う共通認識も形成されて来ていると信じられたからです。もっと直接的な理由は、素晴らしい人々に逢えたからです。あの顔、この顔が思い浮かびます。チャーターナイト、地区大会、IMそして10周年行事もあの人、あの顔の視線をうけなければ、そして連帯感がもてなければ、やって来られませんでした。一人ではくじけるけれど、仲間がいるからやってこられた、仲間のためにくじけるわけにはいかないと言う思いが、皆の胸のうちにあったから出来たのです。

「理想」が存在したこと、その理想に共感する素晴らしい人達と網の目のような固い連帯をもち得たこと、この二つが10年続いた理由であり20年続けられる理由だと信じます。「理想」だけでは角が立つ、「楽しい仲間」だけでは流される。誰の人生も結構にぎりもあるものですが、この年令になって大真面目に職業倫理などを言う「固いするめ」を噛みしめつつ飲む酒が、またやたらと美味しいと言う仲間を持てたことは、誠に幸せなことではないでしょうか。IMや10周年行事を挙行了したことで全員の網の目はより堅固になったものと確信しております。

宮 本 正 祥

先般チャーターメンバー各位宛にと原稿の依頼が来た。創立時には25名であったが、現在残っている方々は17名で、8名が退会された事となる。人間の出会いと別れ、これも時の流れかと思うと感慨無量である。

創立から間もなく新南の標語を考えようと武下さんが中心となり模索した事がある。色々なモットーが出たが、全員が賛同したのが「シンプル イズ ベスト」であったと記憶している。そしてもう一つは田辺さんの言われた「MOST FRIENDLINESS, LEAST FORMALITY」であった。

このような理念のもとに、当時初々しかった多くの会員が心をつととし、志を高く持ち、ロータリーを学ぶべく船出した。最初の3年間は会員間の親睦を重点的に推進した。この親睦活動が今日の新南のコアとなり、又奉仕活動を行うための土台となった事には間違いない。

真の「ロータリアン」と言うのはどのような人なのか。入会して10年経っても凡人である私には遠い道程のようで、ロータリー精神を宿らせるべく苦闘し続けている。幸いお手本には事欠かない。入会以来、素晴らしい方々との出会いがあり、その方々とのつき合いや友情を通じて多くの事を学ぶ機会に恵まれた。私見だが、この「ロータリアン」と思えるような方々は共通した理念と精神をお持ちのようだ。職業奉仕においては他人の権利を尊重し、社会正義に反することなく、目標を実現し成功に導き、業界からも尊敬されている。ロータリー活動においても我をなくし、見えぬ所でもひたすら献身的に奉仕活動を全うしている。裏地が良くない上着は良い上着とは言えない、黒澤さん（東京南RC）の言葉が頭に浮ぶ。

ロータリーには種々の恩恵を受けて来た。私も今後の10年間に何とか「ロータリアン」への仲間入りを果たしたいとひそかに思っている昨今です。

村 川 優

東京新南RCの10年間を顧みるのではなく、私自身がその中で過した10年間を振り返って見ます。始めは例会に出て何が何やらチンプンカンプンでしたが、時間の経過と共にRCが永い間継続し、その網が世界中に広がって行った理由が段々とわかって来ました。その真髄は「四つのテスト」にあると私は思っています。会社の仕事でも自分自身の生活でも、この「四つのテスト」がどんなに私を支えてくれたことか。特にその第一句「真実かどうか」。今の世の中では、物事の真実を見つけることが如何にむづかしいか、いやその前に、真実を見つけようとする努力が如何に大切であるかを、ロータリーは常に警告を発しながら私を支えてくれました。その意味で私の東京新南ロータリークラブと共に過した10年間は貴重なものでありました。

沖 宏 之

あれからもう10年が過ぎました。月日の経つのが早いのに今さらながら驚いてしまいました。我々新南クラブは、二つの大きい事業を立派にやりとげた素晴らしいクラブです。そして間もなく10周年記念祝典が行なわれようとしています。会員全部が何か事あればお互いに力を合わせ見事に成功にもってゆく此のお互いを助け合う事は、我がクラブの誇りであります。私は自分のクラブに大変な愛着を持っています。南クラブと合せて20年100%の出席が出来た事は、南クラブも新南クラブも大好きだからです。あまりむずかしく考えないで、ロータリーの理念にもとづきこれからは出来るだけ4つのテストの元に元氣一杯みんなと、仲良くやって行きたいと考えています。どうか会員の皆様方、健康に充分気をおつけになり、幸せなこれからでありますよう、心よりお祈り申し上げます。

斉 藤 茂 之

お世話になりました。キーメンバーの末端にいたというだけで、大事に扱って頂き、本当に感謝しています。随意気ままに色々な事をしてきた10年でした。

村川会長の時でした。理事会を村川さんの部屋で開いておりました。突然、田辺さんが外出先から戻られ、いささか興奮ぎみに、今“ガバナー”を引き受けて来たと報告しました。それからが大変、色々な議論があり、『僕がガバナーの時、誰が会長かね』と田辺さん、『私めにご座居ます』と佐藤定宏さん、あまり会話が面白いので今も克明に覚えております。今から思うにこの時が、新南RCの夜明けだったんだなと思うしだいです。3才児の新南RCとしては過分な地区大会もこなし、その他の面でもさすが新南さんですねと言われ、最近では分区のIMも立派にこなすことが出来るまでに成長した事になります。

個人的には1983年トロント大会以来、なるべく世界大会に参加しています。本年度12回目、多くの友人が来ました。無線の友、コンピュータ通信の友、ゴルフの友、等々です。

JGFR (Japan Golfing Fellowship of Rotary) 日本ロータリー親睦ゴルフ全国大会もお世話を始めて10年になります。国内で28回、海外で5回、延べ9,000人のロータリアンの方々にゴルフを通じて親睦を深めて頂きました。こんな事に専念出来たのも自由闊達な雰囲気、満ちあふれた新南RCに在籍していたからと感謝しております。

佐 藤 定 宏

当クラブが創立以来何時の間にか10年が経って居たと言う事に、あらためて年月の重さを感じます。

創立当時のことを振り返って見て私が想い出すのは、南クラブ時代田辺さん、田島さんを中心に、赤坂界限に新クラブを一つ拵えることが出来そうな環境が整って来た、という状況を踏まえて、その準備を始めたのですが、私が偶々拡大委員会に所属していた関係上、この仕事に携わることに成って、御一緒に仕事を進めた次第ですが、その際最も大切なことは、会場を何処にするかとか、例会日は何曜日にしようか、ということでは無く、チャーターメンバーに如何にして良い方々を揃えるか、ということでした。この点での田辺さん、田島さんの御努力は並々ならぬものがあり、端で拝見していても誠に真剣なものでありました。その甲斐あって25名の良きチャーターメンバーに恵まれた次第で、ロータリークラブは何んといっても人作りが根本であると痛感した次第でありました。

新クラブの創立事務を仰せつかった次第ですが、R.I.に提出する書類の数は割合多くその総てを英文で記載しなければならず、これらを苦心惨憺して作成、これをR.I.の日本支局（在新宿）に持って行くのですが、このクラブのテリトリーが南クラブと全く同一なのは御承知の通りですが、南クラブの当時（今も同じと思います）の日本語に依るテリトリー表現が、町名表示の変更等行政上の問題もあってそのままでは現状に合致しないなど、テリトリーの表現にむずかしいことがありましたが、日本支局との間でのやりとりで、南クラブと同一のテリトリーなら新クラブも同一の文章で、ということになって、この問題はチョンということになりました。

従って当クラブのテリトリーを表現する、クラブ定款に記してある文章は、日本語ですが、読んでみてもこの文章でははっきりした境界線は引けない、という変なことになっています。クラブ創立に関わる担当者でなければ判らない秘話の一端を一寸御披露しました。

今や我がクラブは10年の経験を得て、着実な歩みを日々踏んで居りますが顧みて、良きチャーターメンバーのもと、その後に加わって来た総員67名のメンバーが紳士の集まりとして、ロータリーの目指すサーヴィス活動に力を傾けていますが、私の感ずる処では特に若いメンバーの方々の良識と実行力に敬意を覚える次第です。次の10年間の成果は誠に期して待つ可きものと、同慶の想いで一杯です。

武 下 朗

1984年に電通をやめ気楽なデザインの生活をしていたところ、私の先輩で今は亡き東京南RCの近藤朔さんから赤坂にロータリークラブができるので参加するようにと言われる。何んのことかよくわからないうちに田辺さん、田島さんの面接を住友3Mの会議室で受けました。ロータリーのことについては何も説明がなかったような気がしますが、私の外にも数人の方がおられたようにも思います。私はロータリーのことには全く知りませんでした。マークが当時の電通とそっくりで得意先に行くときよくそのことを言われました。今から考えればちょっと恥ずかしいことですが、広告屋の品位をあげるためにまねたこととわかったのは、しばらくたってからのことでした。まねをされる程のロータリーでもう10年余り、好きじゃないスーツを着る日数もすっかりふえ、ちょっと違う生活になった感もあります。いやだったらやめればよいと言うことはわかっていてもそうさせない何かがある。きっとひたむきに活躍する方々の姿と熱い友情がそうさせていると思います。もう一つは「ロータリーの定義」です。余りにもよくできているので反対する理由が見つからないことです。一人の力ではできないことができる、私にとって大切な連帯の場であると思っています。

田 中 武

10年前のロータリークラブに入会させていただいた頃の真摯な思いが懐かしく感じられます。

私のロータリークラブに対するイメージは学生時代、帰省時に父の机上で見る『ロータリーの友』で形成されたものでした。「こんなに世間に俗されず理想を追い求める集団があるのか！ いつの日かこの集団に参加し志を同じにする仲間と奉仕の理想に燃えてみたい」という希望が叶い入会させていただきました。

大学の通学路にあった盲学校の生徒に若者のテレから暖かい手を差し延べてあげられなかった悔しさから「いつかこの借りを返すぞ」という思いが心の底にあったことも入会の動機でした。

しかしこのような決意も日常の雑事に押し流されだんだんと薄れ、ロータリアンとして無為に等しい10年間でした。

10年目の節目を迎え初心にかえり心新たに皆さんと力を合わせ、つぎのような事柄を考えながらもう一度奉仕の理想に燃えてみたいと思います。

ロータリークラブの存在意義。ロータリアンとして社会に何をなすべきか。理論より実践を。親睦で培ったパワーを奉仕に。社会奉仕（国内）と国際奉仕のバランス等々などです。

吉 田 用 親

10年前、当クラブ創立と同時に入会させていただき、ロータリークラブが何たるかが解らないままに、年月が経った感がある。入会当時は、例会に出席する際に緊張感を持って臨んでいたが、日を経るにつれ、親しきが増していき、ヤンチャ坊主的感覚で例会を楽しむようになってきた。ロータリーの基礎は例会にあるが、より広く、深くロータリーを楽しむ場は、例会場を出てからにあるように感じる。火曜会、食べ歩き会、旅行、アイメイトや、泉の家での社会奉仕活動等を通じて得た会員相互の理解と親睦、人との出会い、そして、感動と喜びは、ロータリーならではと、感謝している。又、チャーターナイトや、地区大会、そして今年のIMの実施を通じて得た、当クラブ会員以外のロータリアンとの交流、ロータリーに関する理解、物事の取進めに対する経験は計り知れないものがある。このように、ロータリーを通じて得たものは数々あるが、何よりも大きいのは、多くの、尊敬すべき人との交流を得た事だと思う。物事に対する深い洞察力と見識、人と接するに深い思いやりと謙虚さ、そして品位ある態度行動等、少しでもこの人達に近付けたらなあ、と感じる事が多い。「ロータリーは人を作る」と言われた事があるが正に至言だと思う。又、「ロータリーは森林浴みたいなものだ」と言う人もいた。今後も、清々しい気分、ロータリーを学び、人を学び、そしてロータリーを楽しみたいと願っている。

山 下 忠 治

この10年間、クラブ活動に特に熱中したということもなく、チャーターメンバーとして慙愧の念に堪えません。

歴代の会長、幹事をはじめ委員長の方がたの活動を拝見しておりますと、ご自身の仕事を相当犠牲にしてクラブ運営に当たっておられることに先ず敬意を表します。

クラブ活動で重要な役割を担えば担うほど、本来の自分の仕事の時間的犠牲があるということ、このあたりが未熟な私にとって、どうも釈然としないところです。これを犠牲と考えるのではなく喜びと感じなくてはいけないのだと思いますが、諸賢のご指導によってこの悩みが解決することを希っています。

さて、1997年1月27日にロータリーの創始者ポール・ハリスの没後50周年を迎えます。私は10年間を顧みて反省すべき点が多く、これを機会にポール・ハリスの生涯あるいは、人となりを知り、遺徳を偲びながら、なぜこれほどまでにロータリーの輪が世界中に広まったのか、ロータリーの秘奥を究めることは無理としても、その魅力を探り出したいと思っています。

◎先週報告

11月29日／第489回例会



山本 益博氏

◎卓話「美味しいものは身体にいい」

マスヒロジャパン代表取締役・料理評論家 山本 益博氏

◎年次総会／次年度（97～98年度）理事・役員決定

クラブ定款第4条第2節及びクラブ細則第4条第1節第3節により、当クラブ年次総会において（11月29日例会）次年度（97～98年度）理事・役員選挙を行い、次の8名の候補者を以て当選者に決まりました。

会長エレクト（役員）：宮武保義君、副会長（役員）：山下忠治君、

幹事（役員）：渡部一元君、会計（役員）：梶内滋男君、

理事：伊部和夫君・関 征春君・高須康有君・吉田用親君

◎次年度（97～98年度）SAA決定

クラブ細則第1条第3節により、武下朗次期会長、前記選出された次年度理事・役員及び河原勢自会長は、11月29日例会後次年度理事会を開催し次年度（97～98年度）SAAに吉岡琢磨君を選出しました。

◎幹事報告

12月定例理事会は第1週12月6日が10年記念式典・祝典・忘年家族会のため、第2週12月13日例会後に変更して開催致します。

◎親睦委員会報告（青野委員長）

10周年記念式典・祝宴の後に、二次会10周年の余韻を楽しむ会を催します。奥様共どもご参加下さい。

◎ロータリー財団委員会報告（横山委員長）

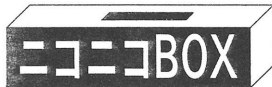
本年度に入りポールハリスフェロー6名、ベネファクター2名、合計8名の御協力をいただきました。ありがとうございました。

◎慶事披露●100%出席／渡部一元君（6年） 西澤正雄君（5年）

◎出席報告●会員68名・出席49名・欠席19名（出席規定免除者1名）

ビジター（2名、敬称略・順不同）／西澤潤一（仙台RC）、小見山了一（東京南RC）

ゲスト（1名）／開発英基（宮武会員のゲスト）



順不同・敬称略

11月29日／11件45,744円

本年度累計 1,134,380円

多額のご寄付を有難うございました。

佐々木忠行、宮武保義、宮本正祥、河原勢自、保森 登、荒木昭文、高須康有、小杉眞史、渡部一元、西澤正雄、10周年祝典委員会

紙面の都合上コメントを省略させて頂きました。

◎12月行事予定

3日（火） 火曜会 東京全日空ホテル37F アストラル 17:30～19:00

4日（水） 第2回地区会長会

ロイヤルパークホテル 2F 東雲の間／会議 15:30～17:30

2F 有明の間／懇親会 17:30～18:30

6日（金） クラブ創立10周年記念式典・祝宴・忘年家族会

東京全日空ホテル B1 青雲の間／式典 16:00～17:45

B1 端雲の間／祝宴・忘年家族会 18:15～21:15

13日（金） 第2750地区中村健二郎ガバナー公式訪問

東京全日空ホテル 1F 孔雀の間／懇親会 9:30～10:20

B1 青雲の間／クラブ協議会 10:30～12:10

B1 八雲の間／例会 12:30～13:30

12月定例理事会 東京全日空ホテル 1F 孔雀の間 13:40～15:00

14日（土） R財団98～99年度国際親善奨学生応募説明会

上智大学四谷キャンパス内・上智会館5階ホール

応募説明会 14:00～16:00

意見交換会 16:10～16:50

27日（金） 休会（年末）

◎次週予告

12月13日／第491回例会

◎R I 第2750地区 中村健二郎ガバナー公式訪問

◇ガバナー・会長・幹事懇談会／9:30～10:20 孔雀の間（1F）

◇第3回クラブ協議会／10:30～12:10 青雲の間（B1）

テーマ「創立の原点を見つめて—過去を振り返り、未来を築こう—職業奉仕を通して」

◇例会／12:30～13:30 八雲の間（B1）

卓話予定 公式訪問に際して ガバナー 中村 健二郎氏（東京城西RC会員）

東京新南ロータリークラブ

会長：河原勢自 副会長：保森 登 幹事：荒木昭文

〒107 東京都港区赤坂2-19-8 赤坂2丁目アネックス3階

TEL.03-3505-5976 FAX.03-3505-6004

例会日●毎週金曜日 12時30分

例会場●東京全日空ホテル 〒107 東京都港区赤坂1-12-33 TEL.03-3505-1111

〈会報委員〉

山下 忠治、大村 富俊、伊部 和夫、大日方 真、柴藤清三郎、相澤 成憲、島田 昌雄、村山 公士、川鍋 二郎、関 征春、宮本 正祥、岩瀬 秀郎

（編集担当順）